

◆日本共産党の見解を紹介します。

<http://toride.jcpweb.net>

メール jcp.toride@blue.ocn.ne.jp

◆ご意見、ご要望をお寄せください。

明るい取手

2012年4月1日(日)

発行:日本共産党取手市委員会

取手市井野3-19-6 TEL.72-7816

生活のお困りごとなどお気軽にご相談を

■高木晶市委員長/TEL:74-2004

■加増みつ子市議/TEL:74-8154

■遠山ちえ子市議/TEL:83-8290

■鈴木きよし市議/TEL:74-8160

■せきど 勇市議/TEL:78-0500

加増みつ子市議への暴言 藤井信吾市長が謝罪

3月2日、5日に亘る加増議員への藤井市長の暴言に対し、14日、日本共産党取手市議団は、再三にわたる市長の暴言は、単に加増議員に対するものにとどまらず、市民に向けられたものだとして受け取らざるをえない、許しがたいものであり、強く抗議するとともに、発言の真意について文書での回答を求めました。

藤井市長は、当初は発言の一部は認めながら、「人間じゃない、死ねとはいっていない」などと発言を否定していましたが、加増みつ子市議に謝罪、3月23日の市議会全員協議会でも「行き過ぎがあった」と謝罪しました。

「発言の真意を問う」質問書に対し 「少し時間がほしい」と約束するも…未だ回答なし

3月21日までに、文書による回答を求めていましたが、21日になっても文書回答はありませんでした。日本共産党市議団は、22日、文書による回答を再度求めたところ、藤井市長は「少し時間がほしい」と回答を約束しましたが、29日現在まで回答はありません。

3月22日に再度、回答を求めた「市長へ申し入れ書」の全文です。

藤井市長の一連の言動に関する質問に対する文書での未回答について

3月14日、日本共産党取手市議団(団長 加増充子)は、貴殿に対し、3月2日、5日に亘る加増充子市議への度重なる言動は、単に加増充子議員に対するものにとどまらず、市民に向けられたものとして許しがたいと厳しく抗議し、改めて貴殿の言動の真意について質し、3月21日までに、文書による回答を求めました。

しかしながら昨日21日になっても文書回答はありませんでした。貴殿の言動・態度が問われていることに対し、真摯に立ち向かわずこれに応えぬ態度は、市長の資格にかかわるもので到底ゆるされるものではありません。

貴殿の言動は、多くのマスコミが看過できぬ問題として取り上げ、報道したこともあり、広く市民の知るところとなりました。私どもには「市長への怒りの声」のみならず、市政のあり方を問う声も多く寄せられています。市民は貴殿の市政運営を問うているのです。

改めて問います。今回の「言動」についての真意を明らかにすると共に、市民に対しご自分のとった行動について説明し、また今後何を基本に市政運営をすすめていくのか改めて表明することは市長たる貴殿の義務と考えます。これらとあわせ改めて貴殿の文書回答を求めるものです。

市民の声を大切に市政を求め、引き続き日本共産党はみなさんと力を合わせる所存です。

藤井市長の暴言

3月14日、市長へ提出した質問書から
ー3月18日付「明るい取手」で既報ー

■3月2日、取手市役所2階、秘書課前にて、藤井市長は、加増市議を呼び止め、日本共産党取手市委員会が発行した「明るい取手」(2012年3月4日号)の記事(あいつぐ新聞報道/街路灯・LED化/ここでも「疑惑」の見出しで、『一般紙』で報道された新聞記事(朝日新聞2月25日付、東京新聞2月25日付)と寄せられた市民の声』を紹介)に対し、「疑惑とはなんだ…、人間じゃない…」と発言。

さらに、同日、日本共産党議員団控え室前で、藤井市長と加増議員の間で、前述の「明るい取手」掲載の街路灯・LED化の記事についての話し合いになりました。その中で、藤井市長は加増市議に対し、「…死ね…」と発言。

■3月5日議会休憩中、市議会本会議場内で、加増市議が渡辺繁男都市整備部長と会話しているところへ、藤井市長が割り込み、加増議員に対し、駅前開発に関する事前通告した一般質問の項目に対し、あれこれと一方的に述べ、「…地獄に堕ちろ…」と発言。

原発事故から一年
ようやく

「取手市除染実施計画(案)」

裏面に

3月23日、取手市議会全員協議会で放射能汚染の対策として「取手市除染計画(案)・第1版」が示されました。この計画を国に提出し、国と協議し決定されます。計画では学校など子どもの施設から始められ、25年度を完了予定としています。実際に本格的な除染が始まるにはまだまだ時間がかかるものと考えられます。裏面に「全員協議会」で公表された資料の一部を紹介します。

一人で悩まずに お電話を

弁護士無料法律相談
生活相談・労働相談

電話72-7816
電話72-7816

■除染実施計画の 対象となる区域

(μSV/h)			
地区名		対象地域	平均空間線量率
中央地区	白山1	全区域	0.31
	白山2	全区域	0.32
	白山3	全区域	0.31
	新町	全区域	0.28
	八重洲ニュータウン	全区域	0.28
	本町	全区域	0.28
	上町	全区域	0.26
	仲町	全区域	0.26
	片町	全区域	0.25
	合宿1	全区域	0.27
	合宿2	全区域	0.25
	新道	全区域	0.25
	井野台1	全区域	0.30
	井野台2	全区域	0.32
	井野団地1	全区域	0.28
	井野団地2	全区域	0.27
	八重洲	全区域	0.25
	第二八重洲	全区域	0.26
	川辺	全区域	0.26
	つつじが丘	全区域	0.25
	青柳	全区域	0.25
	吉田	全区域	0.23
	桑原・桑成	一部区域	0.26
	新田・茨株・寺成	区域外	
	本郷	全区域	0.30
	関鉄ニュータウン	全区域	0.33
	駒場	全区域	0.32
	駒場団地	全区域	0.29
	大山・後山	全区域	0.27
	小山	全区域	0.33
	新取手	全区域	0.29
	西	全区域	0.30
	稲	全区域	0.31
	利根川河川敷区域	全区域	0.26
西部地区	野々井	全区域	0.28
	米ノ井	全区域	0.27
	戸頭	全区域	0.30
	戸頭団地	全区域	0.28
	戸頭町会1	全区域	0.27
	戸頭町会2	全区域	0.27
	永山	全区域	0.29
	上高井	全区域	0.29
	下高井	全区域	0.29
	貝塚	全区域	0.26
	市之代	全区域	0.27
東部地区	城根	全区域	0.23
	小堀	全区域	0.23
	西方	一部区域	0.23
	大利根団地	全区域	0.25
	小文間南	全区域	0.23
	中妻	一部区域	0.23
	小文間新田	一部区域	0.23
	戸田井	一部区域	0.24

文部科学省より発表された航空機モニタリング調査結果及び市が主体となって実施した市内の空間線量率の調査に基づき、地上1メートル（小学生以下の子どもの生活空間は50センチメートル）の高さにおいて、区域内の測定結果の平均が毎時0.23マイクロシーベルト以上である区域並びに日常生活環境の中で子どもが多く利用する施設の測定結果の平均が毎時0.23マイクロシーベルト以上の施設を除染が必要な区域として本計画の対象区域とします。

取手市除染実施計画対象区域図



地区名		対象地域	平均空間線量率
藤代地区	相馬第1	全区域	0.23
	相馬第2	全区域	0.23
	相馬第3	全区域	0.23
	相馬第4	全区域	0.23
	相馬第5	全区域	0.23
	相馬第6	全区域	0.23
	宮和田新田・藤代新田	一部区域	0.23
	宮和田上	全区域	0.23
	宮和田中	全区域	0.23
	宮和田下	全区域	0.23
	南町	全区域	0.23
	ときわ台	全区域	0.23
	宮和田関平野	一部区域	0.23
	桜が丘1	全区域	0.23
	桜が丘2	全区域	0.23
	六郷西	一部区域	0.23
	小浮気・谷中	全区域	0.23
	六郷東	一部区域	0.23
	光風台	全区域	0.23
	浜田	一部区域	0.26
	萱場	一部区域	0.23
	新川・大曲		区域外
	双葉		区域外
	高須1		区域外
	高須2	一部区域	0.25
	高須3	一部区域	0.24
	岡・和田	一部区域	0.25
	山王	一部区域	0.25
	配松・神住・中内	一部区域	0.29

◆今回示された「除染実施計画（案）」には、対象となる区域、除染実施の優先順位、除染の方法、汚染土の処理、スケジュールなどが示されています。計画は、全体として国のガイドラインにそったものです。この国のガイドラインにそった除染方法でないと国の補助金対象とされないなど一定の制限がつけられているなど問題もあります。今回示された除染対象区域を決める基となった平均空間線量率を含めた「除染実施計画」を住民の立場で検証し、しっかりとした「除染計画」とすることが必要です。みなさんのご意見を日本共産党にお寄せください